

2024 年 3 月 28 日

各 位

空港施設株式会社

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

空港施設株式会社（所在地：東京都大田区、代表取締役社長：田村 滋朗）は、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、現状認識、今後の対応方針を取りまとめたので、お知らせします。引き続き、進捗状況の検証を行い、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けた取り組みを加速してまいります。

詳細は添付資料をご参照ください。

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

空港施設株式会社 広報・IR 室

電話：03-3747-0953（9：00～17：00）

※土日祝日を除く

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

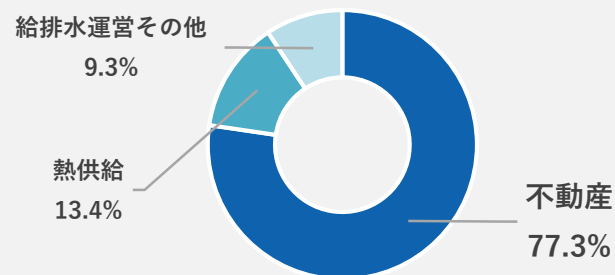
2024年3月28日



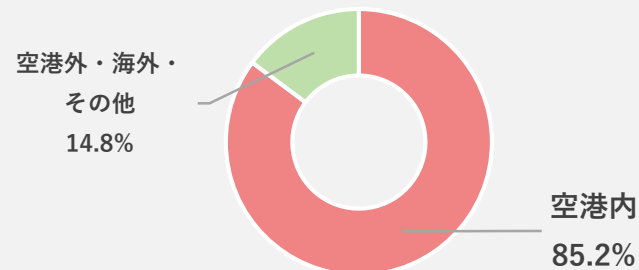
｜ 当社事業の特性 ｜

当社は、創業以来、羽田空港を中心に航空会社をはじめとした航空・空港関連企業へ、航空機の運航に不可欠な施設や空港内のインフラとして地域冷暖房を提供しており、安定した収益基盤を有しております。また、更なる企業価値創造のため、FY2022-FY2028中長期経営計画にて開示している通り、空港外での事業拡大にも力を入れております。

部門別売上高構成比（FY2022）



地域別売上高構成比（FY2022）



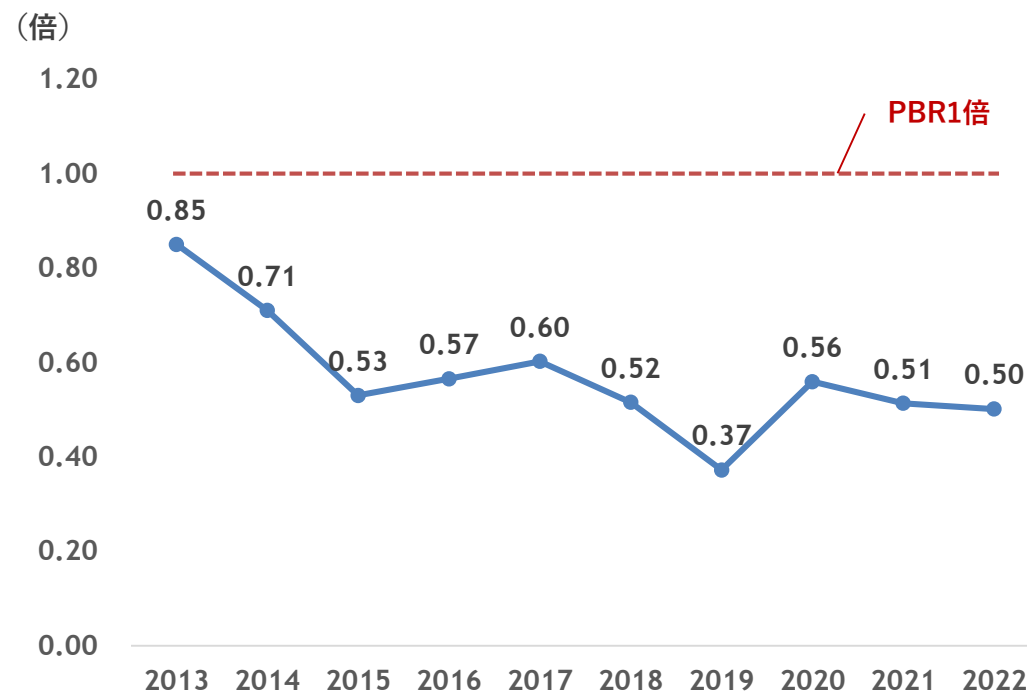
空港を中心とした不動産賃貸、インフラ供給が主であることから**収益が安定的**



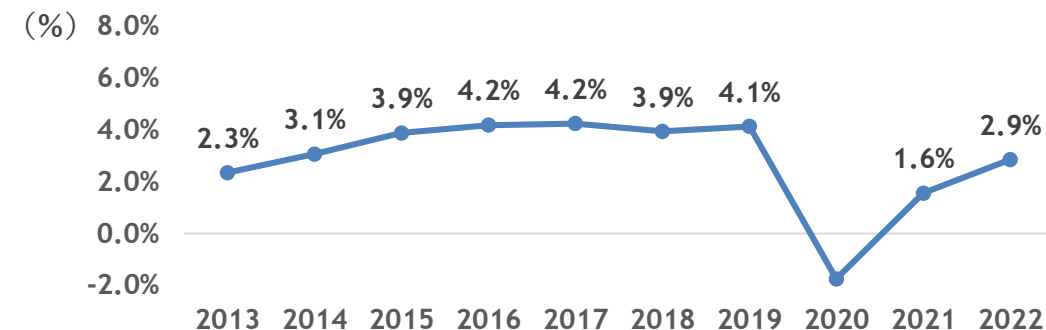
｜ 現状認識 ｜

直近の当社PBRは0.56倍、ROEは2.9%（FY2022）となっております。直近のROEが低迷している要因としては、コロナによる一時的な収益の低下があった他、羽田空港一丁目地区施設再整備事業に伴う資産除去債務の計上（FY2022以降）による収益減が影響しております。投下資本を長期的に回収する事業モデルは、安定的である一方、昨今の要請を踏まえより資本効率を高めていく必要があると認識しております。

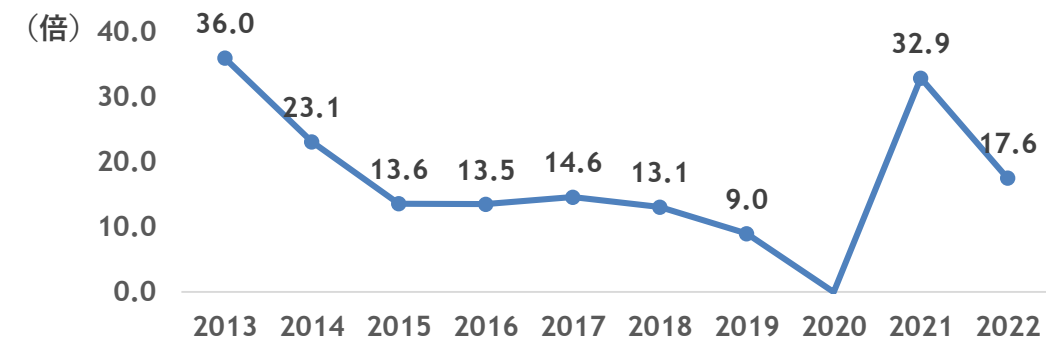
PBR



ROE



PER



｜ 改善に向けた方針・目標 ｜

現在、FY2022-FY2028中長期経営計画に取り組んでおりますが、当社課題の認識や東証要請を踏まえたうえで、中計目標のROA5%を目指すことを通じて、ROE・PBRの向上を目指してまいります。

ROEの向上

中計の着実な実行を通じて、資産効率を意識したリスクに強い事業ポートフォリオを構築し、ROA向上によるROE向上を目指します。

◆ ROAの向上

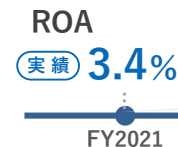
- ・ 中計における重点施策との連動
- ①羽田空港一丁目プロジェクト
- ②ノンアセット事業の拡大
- ③既存事業の高収益化

安定した事業基盤を確保しつつ、
資産効率の高い事業に取り組む

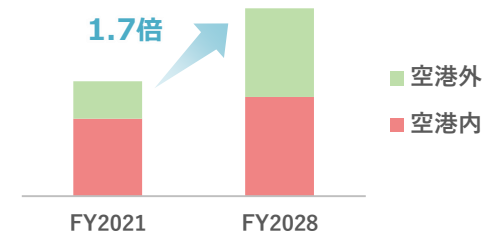
◆ 財務・資本戦略

- ・ 財務の健全性を維持しつつ、
負債を活用した成長投資を実行

中計達成に向けたロードマップ



事業利益の成長目標



ROA = 事業利益（営業利益 + 営業外収益） ÷ 総資産

成長期待の醸成 株主資本コスト の低減

当社への理解や信頼、成長期待を高めていただけるよう、安定的かつ効率的に収益を生み出す経営基盤を構築するとともに、当社の事業活動や収益についてのIR活動を拡充します。

◆ 株主還元の安定的拡大

- ・ 利益と連動した増配
（配当性向40%以上）
- ・ 株主優待制度の変更（2023.7）

◆ 投資家との対話推進と情報開示

- ・ 株主や投資家との建設的な対話の推進
- ・ 情報開示の質的・量的充実

◆ 経営基盤の強化

- ・ 人財・組織戦略
- ・ コーポレートガバナンスの強化
- ・ ITを活用した業務効率化